



当社の社名「Delta-Fly」は  
「Dragonfly（とんぼ）」に由来しています。

# 2026年3月期第3四半期 決算説明資料

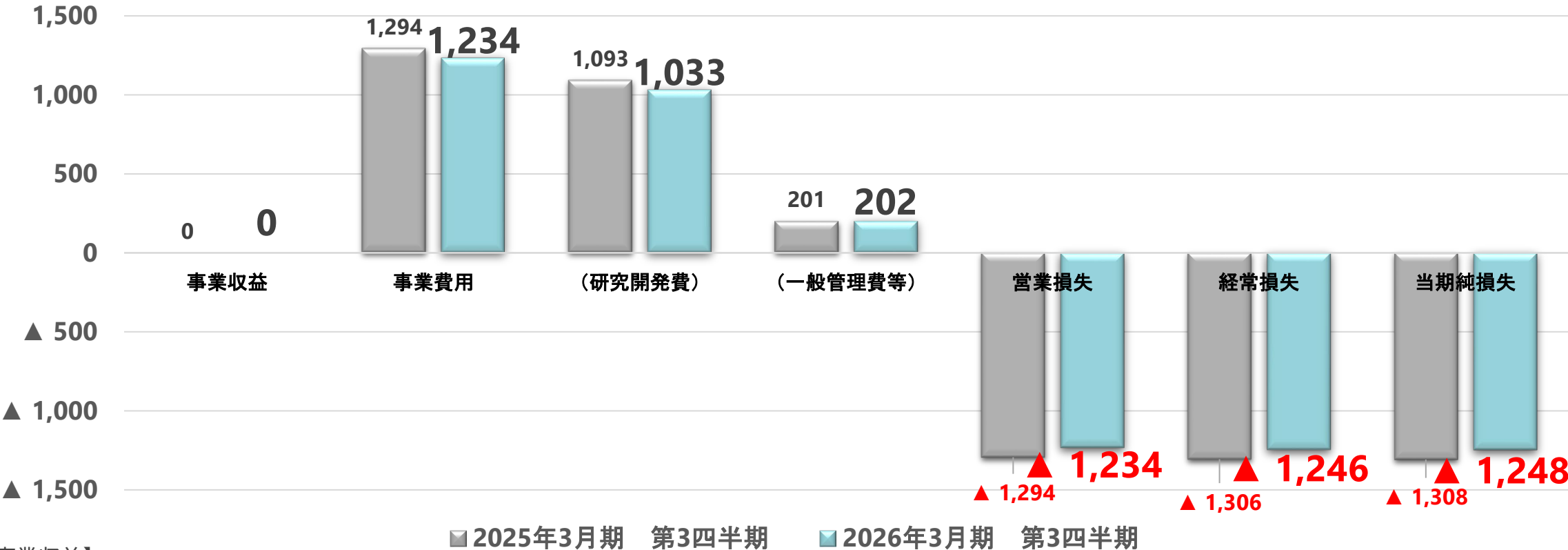
2026年2月13日

Delta-Fly Pharma株式会社  
(東証グロース:4598)

## 2026年3月期 第3四半期決算概要と2026年3月期予想

損益計算書

(単位：百万円)



【事業収益】

当中間会計期間におけるマイルストーン収入等はなく、事業収益はありませんでした(前中間会計期間比－%)。

【事業費用】

事業費用につきましては、開発パイプラインの臨床試験における医療機関並びに症例数の増加、次試験に向けた治験薬となる原薬や製剤の製造などを進めたことなどに伴い、1,234百万円(前年同四半期比4.5%減)となりました。この結果、営業損失は1,234百万円(前年同四半期は1,293百万円の損失)、経常損失は1,246百万円(前年同四半期は1,305百万円の損失)、四半期純損失は1,248百万円(前年同四半期は1,307百万円の損失)となりました。

貸借対照表

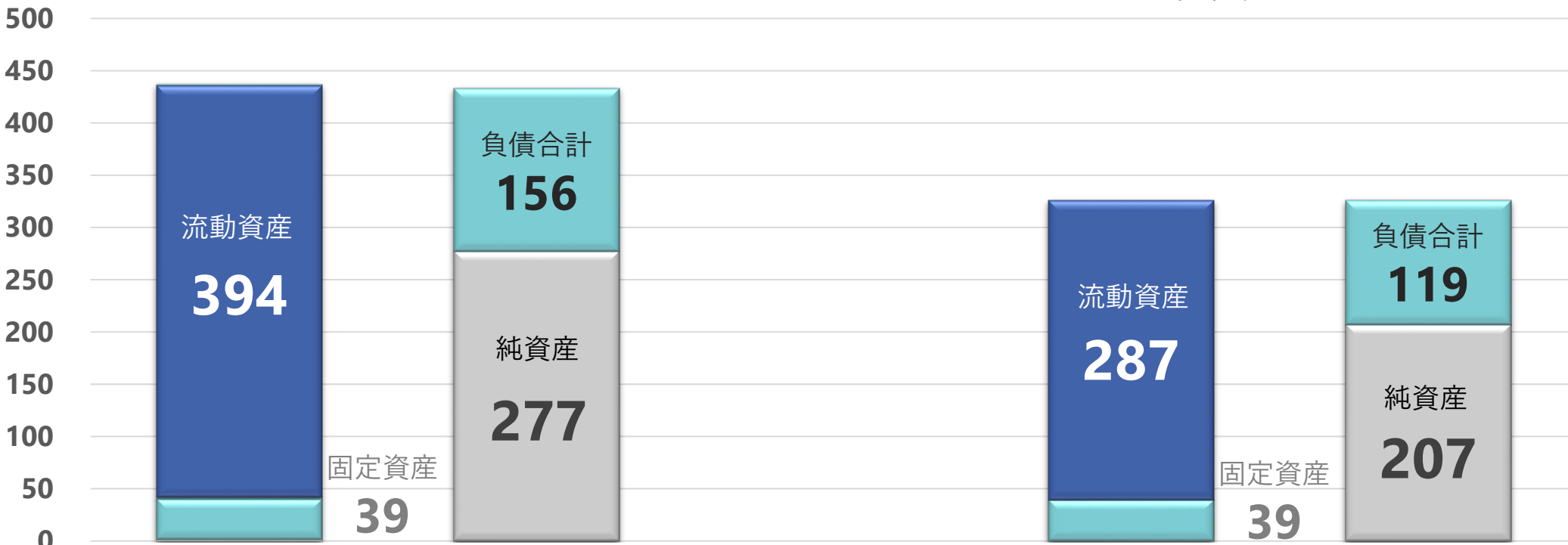
(単位：百万円)

2025年3月期末(前期)

2026年3月期第3四半期(当期)

総資産 434

総資産 326



【資産】

当第3四半期会計期間末における資産合計は326百万円となり、前事業年度末と比較して107百万円減少しました。これは主として、現金及び預金が98百万円減少したことによるものであります。

【負債】

当第3四半期会計期間末における負債合計は119百万円となり、前事業年度末と比較して37百万円減少しました。これは主として、未払金が26百万円減少したことによるものであります。

【純資産】

当第3四半期会計期間末における純資産合計は207百万円となり、前事業年度末と比較して70百万円減少しました。これは主として、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ588百万円増加したものの、四半期純損失の計上により利益剰余金が1,248百万円減少したことによるものであります。

(単位：百万円)

決算年月	第15期 2025年3月期 第3四半期(実績)	第16期 2026年3月期 第3四半期 (実績) a	第16期 2026年3月期通期 (予想) b	予算消化率 a/b
事業収益	0	0	0	-
事業費用	1,294	1,235	1,500	82%
研究開発費	1,093	1,033	1,212	85%
その他の販売費及び一般管理費	201	202	288	70%
営業損失 (△)	1,294	1,235	1,500	82%
経常損失 (△)	1,306	1,246	1,510	83%
当期純損失 (△)	1,308	1,248	1,512	83%

【事業収益】<2025年5月15日の「2025年3月期決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。>  
2026年3月期の事業収益は、引き続きライセンス契約締結に向け契約一時金、マイルストーン対価等を目指してまいります。なお、現段階では見込んでおりません。  
今後、収益が確実になった段階で適時に見通しを明らかにしていく予定です。

【事業費用】<2025年5月15日の「2025年3月期決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。>  
2026年3月期の事業費用は、1,500百万円を見込んでおります。  
当社は、2026年3月期において、米国においてDFP-10917単剤の臨床第3相比較試験の中間解析のためのデータクリーニング処理が完了し、安全性独立委員会( DSMB)へ中間解析データを提出いたしました。DFP-10917とベネトクラクスの併用療法の臨床第1／2相試験は、有効性を確認する第2相部分の症例登録が完了しました。DFP-14927の臨床第1相拡大試験を継続しております。日本国内ではDFP-14323の臨床第3相試験、DFP-17729の臨床第2／3相試験は症例登録を継続してります。  
また、DFP-11207については臨床第2相試験の準備を継続し、DFP-10825については、臨床試験の開始に向けた準備を行っております。

後発事象(第11回新株予約権の発行)

当社は、2026年1月16日付の取締役会において、マッコーリー・バンク・リミテッドを割当先とする第三者割当の方法による第11回新株予約権の発行を決議し、2026年2月2日付で当該新株予約権の1,680千円の払込みが完了しております。

目的

機動性の高い有利子負債調達余力を残しながら、研究開発を推進

資金使途

①DFP-10917+VEN併用の臨床第 1 / 2 相試験の研究開発費及び第 3 相試験の研究開発費	349 百万円
②DFP-10917の臨床第 3 相試験の研究開発関連費用	120 百万円
③DFP-14927の臨床第 1 相拡大試験の研究開発費	150 百万円
④開発体制・管理体制の強化（報酬・人件費等）及び特許関連費用等（関連経費）	100 百万円

(※)各資金使途の総額は、本新株予約権の発行価額の総額に、本新株予約権が全て当初行使価額で行使された場合における金額を合算した金額から、発行諸費用20百万円を差し引いた手取概算額を記載しております

第11回新株予約権による資金調達を実施

資金調達総額（※1）		約7.19億円(当初行使価額ベース)
潜在株式数		3,000,000株
潜在希薄化率（※2）		24.67%
償還期限/権利行使可能期間		2年間(割当日の翌取引日から2028年2月2日まで)
行使価額	当初	246円(発行決議前日の終値の92%)
	上限	なし
	下限	134円(発行決議前日の終値の50%)
	行使価額の修正	各行使請求日の前取引日の終値の92%に相当する額に修正 (ただし、下限行使価額は下回らない)
償還/取得条項		当社取締役会の決議に基づき、本新株予約権の払込期日の翌日以降いつでも、15取引日前までに本新株予約権者への通知により、残存する本新株予約権の全部又は一部を本新株予約権の発行価額相当額で取得可能
割当先		マッコーリー・バンク・リミテッド

(※1)資金調達総額は、本新株予約権の発行価額の総額に、本新株予約権が全て当初行使価額で行使された場合における金額を合算した金額から、発行諸費用20百万円を差し引いた手取概算額を記載しております

(※2)2025年12月31日現在の当社発行済普通株式総数 12,159,900株に対する割合です

本ファイナンスに関する詳細は、2026年1月16日公表のプレスリリース「第三者割当による行使価額修正条項付第11回新株予約権の発行に関するお知らせ」をご参照ください



(単位:百万円)

資金調達	調達額 (実績・予定)	資金使途	充当額	使用期間
新株式（払込済み） 第7回新株予約権（全て行使済み）	1,443	DFP-17729の臨床第1相/第2相試験及び臨床第2相/第3相試験の研究開発費 DFP-11207の胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費 DFP-14927の臨床第1相試験及び次臨床試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費)及び特許関連費用等(経費)	873	2023年11月～2026年11月 2024年4月～2028年3月期 2023年11月～2025年3月期 2023年11月～2025年4月 2023年11月～2025年3月期
第8回新株予約権(全て行使済み) 第9回新株予約権(未行使)	1,114	DFP-10917+VEN 併用の臨床第1/2相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	1,044	2024年10月～2026年3月期 2024年10月～2026年3月期 2024年10月～2025年12月 2024年11月～2025年12月
第10回新株予約権(全て行使済み)	1,157	DFP-14323の臨床第3相試験の研究開発費 DFP-17729の臨床第2/3相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	359	2025年6月～2027年6月 2026年12月～2029年12月 2025年4月～2025年12月 2026年1月～2026年9月
第11回新株予約権(未行使)	719	DFP-10917+VEN併用の臨床第1/2相試験の研究開発費及び第3相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	0	2026年2月～2027年3月期 2026年2月～2026年9月 2026年2月～2027年3月期 2026年10月～2027年3月
合計	4,433		2,276	

(単位:百万円)

対象	調達額 (実績・予定)	内容	充当額	2025年12月末までの充当状況
DFP-10917	777	臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	686	実施中
DFP-10917 + VEN 併用	849	臨床第1/2相試験の研究開発費	433	実施中
DFP-11207	180	胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費	40	実施中
DFP-14927	500	臨床第1相試験及び次試験の研究開発費	347	実施中
DFP-14323	650	臨床第3相試験の研究開発費	119	実施中
DFP-17729	900	臨床第1相/第2相試験及び次試験の研究開発費	223	実施中
人件費及び経費等	577	開発体制、管理体制の強化、特許関連費用等	428	実施中



## パイプラインの状況と今後のスケジュール

DFP-10917のP-3は安全性独立委員会(DSMB)からの報告を受けスケジュールを変更しております。  
また、DFP-11207は医師主導治験によるP1/2を新たに追加しております。

開発品	開発地域	開発段階	上市後の最大年間製品販売予測(億円)	公表時点	2024年3月期	2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期		2028年3月期		2029年3月期		2030年3月期以降
					下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
DFP-10917		自社P-3	Global 1200	今期計画	P-3 試験中 <フォローアップ・解析>											
				前期公表分	P-3 試験中 <フォローアップ・解析> 申請準備予定			上市見込み								
	自社VEN併用P1/2	今期計画		P-1／2 試験中												
		前期公表分		P-1／2 試験中												
		他社P-1		今期計画	P-1 試験中											
				前期公表分	P-1 試験中											
DFP-14323		自社P-3	国内100	今期計画	P-3 試験準備	P-3 試験中						<フォローアップ・解析>		申請準備予定	上市見込み	
				前期公表分	P-3 試験準備	P-3 試験中				<フォローアップ・解析>		申請準備予定	上市見込み			
DFP-17729		自社P-2／3	国内50 × n	今期計画	P-2／3 試験中						<フォローアップ・解析>		申請準備予定	上市見込み		
				前期公表分	P-2／3 試験開始					申請準備予定	上市見込み					
DFP-11207		自社P-2準備	Global 1000	今期計画	P-2 準備						P-2 試験予定					
				前期公表分	P-2 準備				P-2 試験予定							
		医師主導P1/2	NA	新設					P-1／2 試験中							
DFP-14927		自社P-1拡大	Global 300	今期計画	P-1 試験完了				P-1 拡大試験中							
				前期公表分	P-1 試験完了			P-1 拡大試験中								
DFP-10825		自社P-1準備	NA	今期計画	P-1 準備											
				前期公表分	P-1 準備											

注1 「上市後の最大売上高予測」は、「薬事ハンドブック2025(じほう)」より、当社における1年間での最大製品販売額(死亡者数×類似疾患医薬品薬価×独自係数)にて算出しました。また、当該製品販売額は各パイプラインのライセンスアウト後におけるロイヤリティ収入等を予測したものであり、将来的には変動することがあります。

注2 開発品の製造・販売承認については、開発地域の規制当局からの承認が認められた場合、順次その他の地域(例えば:米国、欧州、アジアなど)の拡大を見込んでおりますが、その他の地域の規制当局による承認が必要となります。

注3 上記、開発段階及びスケジュールは、今後、変更される可能性があります。

開発品	開発段階	2026年3月期の予定	2026年3月期第3四半期と現在の状況
DFP-10917 (点滴静注剤) 急性骨髄性白血病 (難治性・再発)	P-3 試験中 (米国)	安全性独立委員会(DSMB)へ提出に必要な全てのデータ を取り揃え、優越性可否の判断を委ねる予定 併せて、承認申請に向けた準備を継続する	安全性独立委員会(DSMB)に必要な全てのデータ入力と中間 解析が完了、資料提出を行い、DSMBで審議が実施され、治験 実施計画書で設定されていた優越性が検証されなかったことから 本試験を中止する旨の報告を受け取りました また、DSMB からは、安全性による中止ではなく、患者の多様 性を考慮し、特定のサブグループで有効性の差異を検証する価 値があるとの見解も示されました 本報告を受け、今後提示される中間解析の結果と本剤の有効性 と安全性を精査し、本剤の AMLにおける単剤での開発の継続 の可否を判断する予定です
	P-1/2 試験中 VEN併用 (米国)	DFP-10917とベネトクラクス(VEN)との併用によるP-2 部分の症例登録、試験を継続推進する	P-2部分の症例登録は、第2段階目標の症例登録が完了いたし ました。なお、効果の判定に必要な一定期間のフォローアップの 後に、データモニタリング委員会(DMC)により有効性と安全性 の判定を受け、米国の食品医薬品局(FDA)と臨床第2相試験終 了時相談を行うために準備を進める予定です
	P-1 試験中 (日本)	日本新薬によるP-1を継続	日本新薬によるP-1を継続

開発品	開発段階	2026年3月期の予定	2026年3月期第3四半期と現在の状況
DFP-14323 (経口剤) 末期の肺がん	P-3 試験中(日本)	P-3試験を継続推進する	P-3比較試験を国内約30施設で症例登録を継続中
DFP-17729 (経口剤) 末期の膵臓がん	P-2/3 試験中(日本)	P-2/3の症例登録を開始・推進する	2025年8月にP-2/3比較試験の第2相部分の第1症例が登録され、現在、国内約15施設で症例登録を継続中
DFP-11207 (経口剤) ①膵臓がん胃がんの手術後の再発防止 ②胆道がん	P-2 試験準備中 (米国・日本)	導出先の選定とP-2実施候補国(米国・日本)を検討を継続する	導出先の選定とP-2実施候補国(米国・日本)を検討を継続中
	医師主導治験 P-1/2試験中(日本)	新設	2026年1月、一般社団法人 日本肝胆膵オンコロジーネットワーク(東京都中央区、代表理事・理事長: 古瀬 純司)と共同で DFP-11207について、胆道がんに対する医師主導治験(臨床第1/2相試験)を開始 神奈川県立がんセンター及びがん研究会有明病院において実施される予定
DFP-14927 (静注剤) 膵臓がん胃がん 骨髄異形成症候群	P-1 拡大試験中 (米国)	P-1拡大試験を継続推進する	P-1拡大試験は、がん組織において、GEM/nab-PTX 併用療法が無効の膵臓がん患者を対象に、病勢コントロール率(DCR)の改善 25%以上を効果指標として実施する予定
DFP-10825 (腹腔投与剤) 胃がん、卵巣がん、膵臓がん の腹膜播種転移	P-1 試験準備(未定)	P-1の実施候補国は米国もしくは日本で実施検討を継続する	P-1の実施候補国は米国もしくは日本で実施検討を継続する

- 本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 本資料は、当社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来に対する見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の結果が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



# ご清聴ありがとうございました

## IRに関するお問い合わせ先

Delta-Fly Pharma株式会社

E-mail [info@delta-flypharma.co.jp](mailto:info@delta-flypharma.co.jp)

URL <https://www.delta-flypharma.co.jp/>